



外務省 ODA 広報キャラクター
©DLE ODAマン

／ 教えて！外務省 ／

知っておきたい国際協力 Vol.3

知っているようで実は知らないことも多い生物多様性。
あらためてその意味や、日本も参加している生物多様性条約について紹介します。

Q 生物多様性とは？

（ A 多様な **生きものの豊かな個性とつながり** のことです。）

多くの人が「生物多様性」という言葉を聞いたことはあっても、「さまざまな生きものが存在していること」というような漠然としたイメージしかもっていないのではないのでしょうか。確かに間違いではないのですが、「生きものの豊かな個性とつながり」のことを意味します。そして生物多様性には3つの

レベルでの多様性があります。

1つ目は森林の生態系やサンゴ礁生態系など、地球上に存在するいろいろなタイプの生態系を表す「生態系の多様性」。2つ目は、私たちヒトをはじめ、鳥、魚、植物など、多種多様な生きものが存在することを指す「種の多様性」。3つ目は、同じヒトでも一人ひとりの

顔や性格が異なるように、同じ種でも異なる遺伝子を持ち、形や模様、生態などに多様な個性があることを意味する「遺伝子の多様性」です。

この3つのレベルから生物多様性を考えることで、より深くこの言葉の意味を理解することができると思います。

Q なぜ、生物多様性は重要なのか？

（ A 私たちの命や暮らしとも **密接につながっているから** です。）

漠然と、「生物多様性は守るべきもの」という意識はみなさんにもあるかもしれませんが、なぜ守らなければならないのでしょうか。

私たちが生きていくには、呼吸に必要な酸素と、適度な気温と湿度が保たれている環境が必要です。酸素は植物の光合成により生み出され、気温と湿度の調節は森林が水を蓄える働きなどが関係しています。また、微生物などによって動植物が分解されてできた土壌は、新たな動植物を生育します。つまり人間だけでなく、さまざまな生命が生きていくた

めに必要な地球環境は、生物多様性があって初めて成り立つのです。

さらに私たちは暮らしにかかせない食べ物、木材、繊維、医薬品などを自然の生きものを利用して得ています。農作物は虫や鳥、土壌の微生物などの働きがあるからこそ育ち、水産物は海の生態系のなかで育まれます。鎮痛・解熱剤のアスピリンもヤナギの樹皮の成分から作られました。このほかにも各地域固有の微生物がもたらす発酵食文化や、サンゴを使って造られる沖縄のサンゴ垣といった地

域の文化をはじめ、森林による山地災害の防止や、サンゴ礁の防波堤・防潮堤などによる防災・減災も生物多様性が関わるものとして挙げられます。意外なところでは空気抵抗を減らすためにカワセミのくちばしの形を模倣して新幹線の先頭部分の形状が設計されたように、技術開発にも生物の特徴が生かされている例があります（バイオミミクリー）。

このように生物多様性がもたらす恩恵を受けながら私たちの命や暮らしが成り立っているからこそ、守らなければならないのです。



毎年5月22日に迎える「国際生物多様性の日」を広めるために作られた2021年公式ロゴ。生物多様性問題に関する普及と啓発のための国際デーとして国連が制定。

今月の
テーマ

生物多様性

答えてくれた人

国際協力局地球環境課
課長補佐

木村麻里子

KIMURA Mariko

2011年環境省入省。21年4月から外務省出向。地球環境課生物多様性班において、生物多様性条約などを担当。



Q 日本が生物多様性の保全のためにしていることは？

（ A **生物多様性条約の締約国** として、**国際的な議論をリードしています。**）

守っていかなければいけない生物多様性は、世界各地で危機に瀕しているのが現状です。①資源の過剰利用などによる生きものの生息地の損失や劣化など、人間活動や開発による危機、②里地里山に人の手が入らなくなったことで生態系のバランスが崩れる、人間活動の縮小による危機、③在来種やもとの生態系を脅かす外来種のように、人間によって持ち込まれたものによる危機、④地球温暖化の影響からもたらされる危機、この4つが生物多様性の危機として挙げられています。

「生物多様性条約」は、このような危機にさらされている生物多様性の保全と、その持続可能な利用などを目的につくられたものです。そし

てこの条約のもとに行われる締約国等による話し合いの場が生物多様性条約締約国会議(COP*)です。日本も締約国として約2年ごとに開催される締約国会議や関連会合に参加しています。

2010年の第10回締約国会議(COP10)は日本がホストし、愛知県名古屋市で開催。生物多様性条約にとって大きな節目となったこのCOP10では、2010年から2020年までの10年間の国際目標となる「愛知目標」が採択され注目を集めました。

現在は、愛知目標の次の10年間の国際的な目標(ポスト2020生物多様性枠組)の策定に向けて、ワーキンググループなどで議論・検討が進められている最中です。ポスト2020生物多

様性枠組が採択される見込みのCOP15は、21年10月と22年春頃に中国・昆明において開催される予定です。

生物多様性の損失を食い止め、よりよい状態に戻すためにも締約国で議論を重ねたうえでポスト2020生物多様性枠組が採択されることを期待しています。とはいえ目標を設定することがゴールではなく、また国だけががんばればいいものでもありません。新たな国際目標が定まった後も引き続き世界中の人が生物多様性の保全に向けてしっかりと取り組んでいくのはもちろん、私たち一人ひとりが生物多様性に関する課題を知り、自分にできることを考えて行動することも重要だと思っています。



Photo: Getty Images



左：サンゴ礁にはさまざまな種類の生きものが生息し、豊かな生態系を構成しているが、海水温の上昇などによってサンゴの白化が生じている事例もある。上：2018年にエジプトで開催されたCOP14の様子。